

日本人間性心理学会第41回大会 学会賞受賞記念講演

令和4年(2022年) 9月11日(日) 16:00~17:00

私と人間性心理学

パーソンセンタード・アプローチ(PCA)とフォーカシング指向アプローチ(FOA)を中心に

伊藤 義美

(名古屋大学名誉教授)

パーソンセンタード・アプローチ(Person-Centered Approach, PCA)

- カール・R・ロジャーズ(1902～1987)が創始したサイコセラピーおよびカウンセリング、さらにその発展形(パーソンセンタード・グループ・アプローチ)の包括的な名称

フォーカシング指向アプローチ(Focusing-Oriented Approach, FOA)

- ジェンドリン,E.T.(1926～2017)が創始したフォーカシング及びフォーカシング指向心理療法、さらにフォーカシング指向の発展形を含む包括的な名称

人間性心理学、『日本人間性心理学会』との出会いと関わり

1. 人間性心理学との出会い

学部生・院生時代にマズロー, A.、カール・ロジャーズらの心理学(人間性心理学)に触れる。人間肯定(可能性)の考え方が心に響いた。

第3勢力の心理学: マズロー, A.、フランクフルト, V.、カール・ロジャーズ、ロロ・メイ、ムスターカス, C.、パールズ, F.、ジェンドリン, E.T.など。
(現在 第6勢力: 統合的包括的全体的アプローチ)

2. 日本人間性心理学会との関わり

- ・ 日本人間性心理学会第3回大会(1984.10.15-16, 2日)(名古屋大学教育学部) 大会のお手伝い
- ・ 第15回大会(1996.9.13-16, 4日)(名古屋大学情報文化学部・人間情報学研究科) 準備委員長
- ・ 第37回大会(2018.9.14-16, 3日)(人間環境大学 岡崎キャンパス) 準備委員長
- ・ 学会運営: 編集、企画活動、国際交流、事務局、理事長等を担当

これまでパーソンセンタード・アプローチ(PCA)とフォーカシング指向アプローチ(FOA)の精神、考え方を尊重して取り組んできている。

個人カウンセリング、学生相談、県児童相談所(非常勤)、県教育センター(非常勤)、民間病院(精神神経科)(非常勤)、スクールカウンセラー(中学校、小学校)の経験がある。

ここでは、エンカウンター・グループ(BEG)とフォーカシング指向アプローチ(FOA)の実践、活動及び研究を中心にお話ししたい。

パーソンセンタード・アプローチ (PCA)

来談者中心療法および体験過程療法との出会い

1. 心理臨床の世界へ (院生時代 1974～1979年)

名古屋大学教育学研究科 (教育心理学専攻)

『臨床心理相談室 (当時の名称)』で心理臨床実践と訓練

(1) 子ども (主に自閉児・自閉傾向児) の遊戯療法

(2) 障害児をもつ母親とのカウンセリング (母子並行治療) (伊藤, 1985)

(3) 個人(主に思春期・青年期)カウンセリング(伊藤,1985,1986など)

- ・学外の相談機関(県教育センター教育相談部、県児童相談所)で心理臨床実践(伊藤,1979など)
- ・名大学生相談室(非常勤)

(4) 研究会: 田畑治先生・カウンセリング研究会(実践・研究)、田畑治先生・臨床青年心理学研究会(事例研究)、丸井文男先生・自閉症研究グループ(事例・調査研究)、社会的態度グループ(調査研究)など

2. パーソンセンタード・エンカウンター・グループ(PCEG)との出会い:グループ・メンバーの経験

(1) カウンセリング・ワークショップ(朝霧高原)

3泊4日の日程(1976年8月)

- 1) ロールプレイ・コース 約15分のカウンセリングの録音
- 2) エンカウンター・グループ(EG)コース(こちらに参加)
EGの知識はほぼなし、全体会から小グループに分かれる、10名程度のメンバーのグループ、2名のファシリテーター(アプローチの仕方がやや異なる組合せ)

(2) 「人間関係研究会」のエンカウンター・グループ

岡山でのプログラム、清里でのグループなど

(3) ラホイア・プログラム・ツアー(米国カルフォルニア)は参加を申し込むが、中止になる。

3. エンカウンター・グループのメンバー体験を通して

- ①個人カウンセリングや日常生活と異なる集団的人間関係の発見と驚き
- ②多様なグループ参加者(年齢、性別、職業、家族、経験、人間関係)と一緒に同じ場に10数時間をともにする。
- ③グループにおける各メンバーの受け取り方や反応が一様でない、参加者数分の受け取りや反応がある。
- ④他のメンバーに目撃されており、自分の存在・態度・言動が意図せず他の人たちに影響を与え、自分も影響を受けている。
- ⑤ファシリテーターは、カウンセラーと違う役割と動き・方法がありそう。
- ⑥ファシリテーターもいろいろあり、ファシリテーターのスタイルや動きの違いがある。コ・ファシリテーターとの組み合わせも問題になる。
- ⑦緩やかな時間の流れの中で、様々な参加者が全員でグループの雰囲気や流れを協働してつくる。安全で信頼できることが重要となる。

- ⑧メンバーの一人ひとりの個性がしだいに明確になってくる。変化のプロセスをじかにともに体験できる。
- ⑨メンバーやファシリテーターが個人的な開示や表明(感情、感覚、経験)を経験する。自己表明の仕方が次第に変化してくる。
- ⑩一人の全体的な人間としてありのままにそこに居るようになる。
- ⑪グループでは、多層の理解(各メンバーの理解、メンバー間の関係性の理解、グループ全体の理解)がある。
- ⑫グループには、セッションやグループ全体に時間制限があり、時間枠内にうまく収まらない場合がある。
- ⑬グループで大きく変化する人、多数回参加することで支えられゆっくり着実に変化する人が確かにいる。
- ⑭心理臨床の視野が拡がり、カウンセラーの成長体験や体験学習として有効である。

カール・ロジャーズ & ナタリー・ロジャーズの 来日WS(1983)

1983年にロジャーズ親娘が来日し、パーソンセン
タード・アプローチ・ワークショップ(Person-Centered
Approach Workshop with Carl & Natalie Rogers,4.30
～5.5)が1W開催された。「人間関係研究会」主催
於:埼玉嵐山 国際婦人教育会館 参加者 66名。
One Day WS(ロジャーズ親娘講演会,5.3)も開催。
参加者 510名。

講演、カウンセリングのデモ、ラージグループでの
対話、クリエイティブ・コネクション(ナタリー)など。

グループ・ファシリテーターの経験

1. 学生のためのエンカウンター・グループ

- ・人間関係研究会のプログラム「学生のためのエンカウンター・グループ」(増田 實先生企画)
- ・箱根方式(全国ネット、豊かな自然、多様な大学からの参加者、3泊4日、低料金、オーガナイザーと男女の2名のファシリテーター、2グループ同時進行など)
- ・ファシリテーターの役割と動きを意識化、概念化(伊藤,1989)

2. 名古屋大学学生相談室主催の「自己発見のための合宿セミナー」、または「自己再発見セミナー」(1980年代～1990年代)

- やや同質的な集団(教養部生、学部生、大学院生)
- 4泊5日(→ 3泊4日)
- 2グループでの実施(→ 1グループ)
- 3～4名のファシリテーター
- 実施終了後に「再会ミーティング」を設定する。
- 全部で19回の実施
- 次第に高学年の学生(学部生、院生)、相談学生の参加が多くなる。「個人療法とグループのコンバインドとコンジョイント」を考える機会になる。

3. 清里プログラム(人間関係研究会)

- ・「人間関係研究会」の中心プログラム(会代表が企画)
 - ・会場: 清泉寮
 - ・日程: 4泊5日 (→ 3泊4日)
 - ・スタッフも多く、参加者が多い
 - ・スタッフ間の交流
 - ・グループの新たな社会的実験の場
- ① 海外のゲスト招聘
 - ② インタレストグループ
 - ③ グループ・ファシリテーター養成
 - ④ 大グループでの実施の試み
- など新しい実験的試みがなされる。

4. 研修グループ、体験学習グループ、人間関係体験グループ

(1) 看護学生、養護教諭、教員、企業人などの研修グループ (伊藤,1994,2016)

(2) カウンセリングの体験学習グループ

- ・ 自発参加でない(研修や授業)参加者のグループ
- ・ 2泊3日の日程が多くなる。
- ・ 2日間の通いのグループもあり。
- ・ 準構成的なグループを工夫する(伊藤,1989)
- ・ 3・3・1方式のグループ(伊藤他,1987)

通い(3日)＋宿泊(2泊3日)＋通い(1日)の実施

エンカウンター・グループの企画・開催

1. 『人間関係研究会』のスタッフになる(1991年)(畠瀬稔先生、村山正治先生など)

2. 「下呂」エンカウンター・グループの企画・開催

- ・一般参加者が対象の自発参加グループ(研修としての参加者もしいに出てくる)
- ・ベーシック・エンカウンター・グループ(BEG)が基本
- ・秋(11月)か夏(8月)に3泊4日の日程 → 2泊3日
- ・2グループ開催 → 1グループ開催
- ・これまで25回の実施(1991年度～2016年度)(伊藤,2012)

3. 人に自分にやさしくふれるEG体験

2021年度から犬山で開催。秋(10月)の1日、そっと人に自分に触れる体験。日帰り(6時間)のグループ。

第8回IFPCA (PCA JAPANフォーラム) の開催

「人間関係研究会」スタッフが中心で開催

2001年8月26日～30日(4泊5日)

会場: 赤穂市関西福祉大学

ラージサイズ・グループでの実施

海外参加者: 16カ国から52名

使用言語: 英語と日本語

エンカウンター・グループの課題

1. グループ・ファシリテーターの養成
2. 非構成的グループと構成的グループの共存と統合
3. 短時間や1日グループや国際多文化間グループの実施
4. 大グループやコミュニティミーティングの試み
5. サポートグループやセルフヘルプ・グループの展開
6. 当事者に役立つグループの追求、さらに社会問題に貢献するグループ(高齢者、被虐待児・者、発達障がい児・者、不登校、犯罪・災害被害者など)の実施
7. 社会生活におけるエンカウンターグループの日常化
8. 新しいオンラインを利用したグループの開催
9. エンカウンター・グループの研究(理論化、実践、応用、事例、実証)の発展

カウンセリング及びエンカウンター・グループ関係の出版

- (1) パーソンセンタード・アプローチ: 21世紀の人間関係を拓く(共編)(ナカニシヤ出版,1999年)
- (2) Mearns,D.& Thorne,B. 著(1988): パーソンセンタード・カウンセリング (単訳)(ナカニシヤ出版,2000年)
- (3) ヒューマニスティック・グループ・アプローチ(編著)(ナカニシヤ出版,2002年)
- (4) パーソンセンタード・エンカウンター・グループ(編著)(ナカニシヤ出版,2005年)
- (5) ヒューマニスティック・サイコセラピー ケースブック1(編著)(ナカニシヤ出版,2008年)
- (6) パーソンセンタード・アプローチの挑戦: 現代を生きるエンカウンターの実際(共編)(創元社,2011年)
- (7) エンカウンター・グループの新展開: 自己理解を深め他者とつながる パーソンセンタード・アプローチ(人間関係研究会監修・共編)(木立の文庫,2020年)

フォーカシング指向アプローチ(FOA)

体験過程療法及(Experiential Therapy)びフォーカシング(Focusing)との出会い

1. 体験過程療法及びフォーカシングとの文献での出会い

- ・体験過程療法と、その技法としての焦点づけ(フォーカシング)
- ・カール・ロジャーズ(Carl.R.Rogers,1902～1987)とジェンドリン,E.T. (Gendlin,E.T.,1926～2017)の研究、両者の関係

2. フォーカシングとの実際の出会い

(1) 日本心理学会第42回大会(1978.10, 九州大学)

ジェンドリンの特別講演『体験過程療法』(当初は、フォーカシングは「焦点づけ」と呼ばれていた)

(2)フォーカシングの箱崎ワークショップ

- ・第42回大会後の箱崎でのフォーカシング・ワークショップ、 1978年10月17日～19日(2泊3日)
- ・ジェンドリンとメアリー・ヘンドリックスさんの二人
- ・フォーカシングのショートフォーム(5ステップ)の紹介(現在の6ステップのショートフォームと少し異なる、「受けとる」がない)
- ・主にフェルトセンス体験(コンプリメントを用いる)の実習
- ・休み時間にジェンドリンから短時間だがフォーカシングを体験する。
- ・京都と東京でもジェンドリンの講演会・セミナーが開催される。

3. 「どんちゃん騒ぎ」の夢

夢:

宴会風のドンチャン騒ぎがたけなわの頃、ジェンドリン夫妻は席をはずそうとする。私は『アレッ』と思い、ひとりで玄関まで出てみる。私は、『どこかへお出かけですか』と声をかけるが、ジェンドリンさんの顔を見てハッとす。妻のメアリーさんは微笑んでいるが、ジェンドリンさんの顔は悲しみにゆがんだ人のように見える。驚いた私をよそに二人は、互いに寄り添うようにして無言で去っていく。私は酔いもいっぺんに醒め、しばらく茫然として、立ち去る淋しい後姿を見ている。『皆に知らせなくては……』と思い、振り向いた私の眼に皆のドンチャン騒ぎが飛び込んできた。ここで夢は終わる。」(伊藤, 1978)。

フォーカシングの輸入は、一時的なドンチャン騒ぎに終わらなかつた。わが国において着実に普及・発展してきている。

・ジェンドリンの『フォーカシング』(1978,1981／1982)(福村出版)発行

1978版 1. 空間づくり 2. 問題の感じ 3. 中核を見つける 4. ラベリング
5. 感じと照合する 6. もうひとめぐり

1981版 1. 空間づくり 2. フェルトセンス 3. 取っ手を見つける 4. 共鳴させる
5. 尋ねる 6. 受け取る

ジェンドリンのWS後のフォーカシングの実践と研究

1. 名古屋でのフォーカシングの研究会(田畑 治先生、西園寺二郎氏とともに)

カウンセリング過程にショートフォームを適用(不登校、職場不
適応、うつ状態などの青年や成人)するもの

カウンセリング過程の途中で、フォーカシングを提案し同意すれば、フォーカシングを導入する。身体面への注意が促される。

2. 「人間関係研究会」のフォーカシングプログラム

- ①エンカウンターグループを促進するためにフォーカシングを導入するプログラム
- ②エンカウンター・グループ⇔フォーカシングのプログラムなど
- ◎エンカウンター・グループ(対人面)に関心が強い参加者とフォーカシング(内的プロセス)に関心が強い参加者に分かれがちになる。フォーカシング・アビリティや性格も関係しているのか。

3. 『日本フォーカシング研究会』の結成

『日本フォーカシング研究会』が1982年に結成。NL「フォーカシング・フォーラム」が年2回発行。

フォーカシングの実践者や研究者が中心の研究会。1986年名古屋での研究会で、ジェンドリンを再度招聘する企画が決定された。

4. ジェンドリン夫妻の再来日

1987年、ジェンドリン夫妻が再来日し、「フォーカシング・セミナー」の開催。日程：9月15日～20日（5泊6日） 会場：中野サンプラザ
1日セミナーもあり。夢のフォーカシングなどフォーカシングの新たな展開、柔軟な適用が紹介される。

前年（1986年）に『Let Your Dream Interpret Your Dream』が出版（1988年に翻訳出版）。このセミナーの記録が『フォーカシング・セミナー』（1991）として出版。

このセミナーのときにジェンドリンさんにシカゴ大学に留学したい旨を伝える。歓迎するとのことであった。

5. 『日本フォーカシング協会』の設立

『日本フォーカシング協会』が、1997年9月15日に設立。NL「The Focuser's Focus」が年4回発行。総会と研修のために「フォーカサーの集い」(現在は、総会)が毎年開催。

フォーカシングの愛好者向けの団体

わが国でのフォーカシングの普及や国際的交流が促進されることになる。

内地研究員、シカゴ大学及びシカゴ・フォーカシング研究所

1. 内地研究員(文部省)

1990年 東京大学教育学部(村瀬孝雄先生)に内地研究員 6か月

- 1)フォーカシング研究会(文献研究)、フォーカシング・ワークショップに参加。
- 2)エンカウンター・グループに参加、個人ケースのスーパーヴィジョンを受ける(日本精神技術研究所・佐治守夫先生)。

2. シカゴ大学在外研究員

シカゴ大学大学院心理学研究科のVisiting Professor(文部省在外研究員)。1993年3月～1994年1月。

ジェンドリンは、「方法論コミッティ」に所属し、学部:「体験過程療法(Experiential Therapy)」と心理学研究科:「理論構成(Theory Construction)」の授業を担当。

学部の授業では多人数だったが、「話し手、聴き手及びオブザーバー」の3名で実習を行っていた。

大学院の授業では、フロイトの文献を基に理論構成について話していた。

体験過程療法は、シカゴ・フォーカシング研究所から『体験過程療法(Experiential Psychotherapy)』のドラフトが出ており、それをもとに『フォーカシング指向心理療法(Focusing-Oriented Psychotherapy)』が1996年に出版されることになる。

「フォーカシング指向」を強調する統合的アプローチとなる。

また理論構成は、TAE(Thinking at the Edge)に発展していったと思われる。

3. フォーカシング研究所、フォーカシング国際会議及びチェンジズ

1) フォーカシング研究所(The Focusing Institute)〔現在は、国際フォーカシング研究所(The International Focusing Institute, TIFI)〕は、当時、シカゴ市内にありワークショップ・プログラムを提供。その中にはトレーナー認定を行うウィークロング・ワークショップがあり、ドイツ、オランダ、イスラエル、カナダ、日本などから参加者があった。

夏のフォーカシング・ワークショップに、木村 易さん、安部 恒久さんが参加した。

2) 「フォーカシング国際会議」がミルウォーキー(1993)で開かれ、フォーカシングの新しい試みが発表されていた。インタラクティブ・フォーカシングやホールボディ・フォーカシングなどの原型が発表され、フォーカシングの豊かな可能性が感じられた。

演者も小学生へのBCS法フォーカシングを発表した。

3) 治療的コミュニティの「チェンジズ(Changes)」はもはや行われておらず、各地区で「チェンジズ」と称していたのは、フォーカシングの会。決められた曜日、時間に少人数の人々(10名前後)が集まり、3名一組でフォーカシング＝リスニングを行うもの。

ロジャーズが生まれたオークパークの自宅で行われていたシモン・ビービー(Simon Bebe)の「チェンジズ」に参加した。

1993年の12月から『フォーカシング研究所』でも「チェンジズ」が行われ始めた。

4. ロジャーズとゆかりのある大学を訪れる

シカゴ大学をはじめ、シカゴ・カウンセリング & サイコセラピー・センター、ウィスコンシン大学、ユニオン神学校、コロンビア大学、カルフォルニア大学サンディエゴ校UCSD、人間研究センターCSP（その他に、カルフォルニア大学ロサンゼルス校UCLA、ミシガン大学）を訪れた。

（日程上の都合でオハイオ州立大学は行けず、オハイオ州に宿泊したのみ）

5. 国際会議への出席

(1)クライアント中心 & 体験的心理療法/カウンセリング国際会議(英国スターリング大学、オーストリア・グムンデン、英国イーストアングリア大学)

(2)第8回PCA国際フォーラム(赤穂:2001.8)

(3)フォーカシング国際会議(シカゴ、ミルウォーキー、淡路島:2009)、東アジアフォーカシング会議(神戸:2017.7) 淡路島と神戸での国際会議には、準備委員として関わる。

(4)心理学国際会議(ブリュッセル、ベルリン、北京、横浜:2016)などに参加。

ときには研究発表も幾つか行う。

フォーカシングとの取り組み

1. フォーカシング・ワークショップの開催

ぎふ・長良川フォーカシング・ワークショップ

1995年度から年1回の実施で、2016年度で第22回目。2泊3日の日程で、比較的少数の定員。専門家と一般向けで初心者コースと経験者コースを設けている。

2. フォーカシング・トレーナーの養成(NFC)とフォーカシングの普及

コーディネーターとしてフォーカシングの会(名古屋フォーカシングコミュニティ、NFC)を月例会的に開催。今年で約23年目。比較的少人数の会で、フォーカサー体験とリスナー体験(あるいはガイド体験)など体験を重視。この会から5名のトレーナーが生まれ、うち4名はフォーカシング研究所の認定のためのウィークロング・ワークショップに参加している。個人のトレーニングも開始する。コロナ下では、オンライン参加、またはリアル参加とオンライン参加のハイブリッド方式によるフォーカシングの会になっている。

3. フォーカシングの実践研究

- (1) カウンセリング過程への適用 (伊藤, 1980)
- (2) ボディ・センスからのフォーカシング (伊藤, 1991)
- (3) 心の空間づくりの適用と活用 (伊藤, 1991, 1994, 2000, 2020a, 2020b, 2021)
- (4) 小学生へのビクス (BCS) 法フォーカシング (伊藤, 1994, 1995)
- (5) フォーカシングの教え方 (伊藤, 1994, 2018)
- (6) 夢のフォーカシング/フォーカシング指向ドリームワーク (伊藤, 1995a, 1995b, 2021, 2022)
- (7) エンカウンター・グループ (EG) での適用 (伊藤, 1999a, 1999b)

- (8)複数フォーカシング法(グループ・フォーカシングの一種)(伊藤,1995,1996,1997,1998,1999)
- (9)教育フォーカシング/6ステップ訓練法(伊藤,1991,2003,2004)
- (10)セルフヘルプ技法(心のつぼ)(Ito,2008,Ito et al.,2008,伊藤,2016,伊藤他,2019)
- (11)セルフヘルプ技法(風景天気図)(Ito,2008,Ito et al.,2008,伊藤,2016,伊藤他,2019)
- (12)イメージの展開(伊藤他,2017)
- (13)バックグラウンド・フィーリング(伊藤,2019)
- (14)フォーカシング指向グループアプローチ(伊藤,2019)

4. フォーカシング関係の出版

- (1) ジェンドリン, E.T. 著 (1993): フォーカシング指向心理療法 (下) (共訳) (金剛出版, 1995年)
- (2) フォーカシングの空間づくりに関する研究 (単著) (風間書房, 2000年)
- (3) ヒンターコプフ, E. 著 (1998): いのちとこころのフォーカシング: 体験的フォーカシング法 (共訳) (金剛出版, 2000年)
- (4) フォーカシングの実践と研究 (編著) (ナカニシヤ出版, 2003年)
- (5) フォーカシングの展開 (編著) (ナカニシヤ出版, 2005年)
- (6) パートン, C. 著 (2007): フォーカシング指向カウンセリング (単訳) (コスモス・ライブラリー, 2009年)

5. 最近の取り組み

セルフヘルプ・フォーカシングの開発と構築

1. 心の空間づくりやフェルトセンスを中心としたフォーカシング（フルフォーカシングよりもミニフォーカシング）（伊藤, 2001, 2002)
2. 日常生活の中において自分でできる、あるいは相互にできるフォーカシングを探索
 - (1) 気がかり方式とからだの感じ方式の空間づくり（伊藤他, 2000）
 - (2) 重要な「ことばや語句」と「絵や写真」のフォーカシング（伊藤他, 2006）
 - (3) 風景天気図フォーカシング（VOMF）（伊藤, 2016；伊藤他, 2019）
 - (4) 心のつぼフォーカシング（KTF）（伊藤, 2016；伊藤他, 2019）
を用いたセルフヘルプ・フォーカシングの検討

6. フォーカシングにおける今後の課題

- (1) フォーカシングの臨床的適用の拡大・深化
- (2) フォーカシングの研究(理論、実践、事例、実証)、ジェンダー理論・哲学の研究の発展
- (3) 他の方法(技法やアプローチ)とフォーカシング指向で併用
- (4) 様々な活動領域、講習会・研修会等での適用
- (5) フォーカシング・トレーナー(やコーディネーター)養成のガイドラインやカリキュラム
- (6) フォーカシング・パートナーシップとフォーカシング・コミュニティ(新しいコミュニティ)の形成の促進
- (7) 日常生活におけるフォーカシングの日常化の推進
- (8) 専門家と準専門家・非専門家との融合・統合(専門化と拡張化)及び国際化の促進
- (9) オンラインの活用

エンカウンター・グループとフォーカシングにかかわる今後の課題：PCAの精神とフェルトセンスを自灯として

1. 日常社会生活でのセルフヘルプ的な活用

- (1)セルフヘルプ・フォーカシングの開発・構築
- (2)エンカウンター・グループ的なグループ・アプローチの実践の拡張
- (3)エンカウンター・グループとフォーカシングの統合

2. 臨床実践と社会的活用及び理論化

- (1)エンカウンター・グループ/フォーカシング及びフォーカシング指向の臨床的活用(臨床実践とセラピストの成長・養成等)とその理論化
- (2)エンカウンター・グループ/フォーカシング及びフォーカシング指向の社会問題への活用とその理論化
- (3)エンカウンター・グループ及びフォーカシング指向と他の方法(技法など)とのコラボレーションや統合

ご清聴ありがとうございました。

日本人間性心理学会のさらなるご
発展をお祈りします。